

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 72

「次代に残そう清流海部川」

徳島県 海陽町長
ごけんや けんじ
五軒家 憲次



平成 18 年 3 月 31 日徳島県海部郡 6 町のうち、南部の下灘 3 町（海南町、海部町、穴喰町）が合併し海陽町が発足しました。合併後の新町も、海、山、川に恵まれた、自然豊かな町です。この恵まれた 3 つの自然は、ここでのテーマであります水におおいに関係していると思われます。地域内には、北から伊勢田川、海部川、穴喰川がおおよそ北から南に流れ、その支流も数多く、温暖多雨の気候もあって水に恵まれた地域です。特にここでは海部川についてご紹介いたします。

海部川は槇木屋谷、大木屋谷に源を発し全長約 36 キロメートルであり、下流の大里平野は海部川による沖積平野で、巨大な大里古墳や大里古銭の出土からも、古くから文化、産業がおこり海部文化の発祥の地でもあります。地域内のみを流れる海部川は古くから、ふるさとの川として地域住民の心のよりどころとして愛され、また地域住民とともに時代の変遷ともにかかわってきたのであります。時代は川上から川下へ……。大正の中期まで海部川は高瀬舟の水路として利用され、川上からは林産物の搬送に、川下からは生活物資の搬送等に、まさに地域住民の生活と重要かつ密接に関わっていたのであります。昭和 40 年頃からの林業の衰退は、川上の様相と、海部川をも大

きくかえてしまったそんな感じがします。人口の流出をまねき、特に高齢化が顕著になり川上から若者、子供の声さえ聞こえなくなった集落が出現しはじめました。小規模所有者の山林は放置され林内の荒廃を招き、保水力を失った針葉樹林帯の山林から水は一気に流下し、海部川の様相、沿岸漁場の様相まで変えてしまった気がします。

地域では「次代に残そう清流海部川」を合い言葉に、海部川清流保全条例を制定し、地域住民、行政が一体となった取り組みを展開しております。

最後に海部川の誇りのいくつかをご紹介いたします。まず上流部の平井地区（中部山溪県立自然公園）に轟の滝があります。轟の滝（本滝）のほかに数多くの個性的な滝が上流に続き、平成 2 年に「日本の滝 100 選」にも選ばれています。下流の海部川支流母川の源氏ホタルの乱舞は、海部川の初夏の風物詩として近隣住民に楽しまれております。また清流海部川は鮎の宝庫でもあります。清流に育った鮎は特に美味しく、シーズンを通じて釣客が訪れます。

このように自然いっぱい海陽町に、是非一度足をお運びください。



轟の滝本滝



海部川（中流）